

第2学年 道徳

第2学年の学習到達目標

- (1) 生活に必要な基本的な生活習慣を身につけようとする態度を養う。
- (2) 身近にいる人々に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。
- (3) 生きるもの全てに生命があることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育てる。
- (4) みんなで使うものを大切に、集団生活に必要な約束やきまりを守ろうとする態度を養う。

第2学年の主な学習内容

学期	主題名	学習のねらい	資料名
前期	自分できちんと	自分でできることは自分でやり、希望を持って生活しようとする態度を養う。	じぶんでオッキー
	相手を思いやって	だれに対しても思いやりの心で接し、親切にしようとする心情を育てる。	くまくんのたからもの
	健康を守る	自分の体に気を配り、健康で規則正しい生活をしようとする態度を養う。	かむかむメニュー
	気持ちのよいあいさつ	気持ちのよいあいさつや返事をしようとする態度を養う。	うれしい気持ち
	進んできれいに	みんなで使うものや場所を大切に、人に迷惑をかけないようにしようとする態度を養う。	こうえんの花
	町のよさ	自分の町のよさを知り、よりよくかわらうとする心情を育てる。	町のひみつわかったよ
	カエルの身になって	やさしい心で動植物をかわいがり、生き物を大切にしようとする態度を養う。	おいたてられた二ひきのカエル
	動植物にもやさしい心で	自然と人間とのかかわりを知り、動植物にやさしい心で接しようとする心情を育てる。	こうえんの見はりばん
	助け合う友達	友達と互いに仲良く助け合い、励まし合っていこうとする心情を育てる。	森のともだち
	正しいことを思い切っ	正しいと思うことは、勇気をもって行おうとする心情を育てる。	わすれられないえがお
	命のつながり	生きていることを喜び、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	ゆきひょうのライナ
	楽しい家庭	家族に対して、感謝の念や親愛の念を持ち、家族の役に立とうとする心情を育てる。	だっておにいちゃんだもん
	やり抜く心	自分で決めたことについてはやり遂げようとする態度を育てる。	さかあがりできたよ
	学級の仕事	学級生活を自分たちの力でより楽しくしようとする態度を培う。	三くみ大すき
みんな友達	身近にいる友達と仲よく活動し、助け合っていこうとする心情を育てる。	ともだちだものね	
後期	正直な行い	うそをついたり、ごまかしたりしないで明るい心で生活しようとする心情を養う。	金のおの
	心を結ぶあいさつ	だれに対しても進んで、気持ちよくあいさつしようとする態度を養う。	「あいさつ」っていいな
	勇気を持って	正しい行動を愛し、それを行おうとする心情を育てる。	おれたものさし
	自然を大切に	やさしい心で動植物をかわいがり、生きているものを大切にしようとする心情を育てる。	ぼくが大きくなったらね
	ぼくの学校	学校の人々を敬愛しようとする心情を育てる。	六つのとんがりのある校しょう
	友達への親切	身近な人々に温かい心で接し、だれにでも進んで親切にしようとする心情を育てる。	学びゅうえんのさつまいも
	うそと正直	うそをついたり、ごまかしをしたりしないで、明るい心で生活しようとする態度を養う。	さるへいと立てふだ
	きまりを守る	きまりや規則の大切さを知り、これを守ろうとする態度を養う。	かくしたボール

後期	感謝の気持ち	自分たちのために働いてくれる人々の労苦を知り、感謝する心情を育てる。	おもいでいっぱいのお休み
	清らかな心	美しいものや気高いものに接し、清らかな心を持つようとする心情を育てる。	七つのほし
	使い方を考えて	ものや金銭を大切にし、よりよい生活をしようとする態度を養う。	かいもの
	粘り強く頑張る	なにごとにもねばり強く努力して、一生懸命やり抜こうとする実践意欲を高める。	ぼくは「のび太」でした
	みんなのものを大切に	みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。	きいろいベンチ
	上手に使う	ものを最後まで大切に使うようとする心情を育てる。	おばあちゃんのお手玉
	やさしく親切に	身近な人々に温かい心で接し、相手のことを考えて進んで親切にしようとする心情を育てる。	かっぱわくわく
	美しさに感動する心	美しいものや清らかなものに感動し、それを大切にしようとする心情を育てる。	ガラスの中のお月さま
	頼もしいお父さん	父母などの労苦を知り、感謝の念や敬愛の心を持つようとする心情を育てる。	おとうさんは、ななし名人
	命のありがたさ	自分が生まれたときの両親の願いについて話し合う。	たんじょう日
	生きる喜び	生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。	ぼく
	おじさん、ありがとう	自分たちの世話をしてくれる人々の苦勞を理解し、感謝する心情を育てる。	じぶんがしんごうきに

評価の観点・方法

- (1) 道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行いません。道徳教育における評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気付ける働きを持つものです。児童の発言や感想文、日記、作文などを利用して道徳性の共感的理解に努め、その結果を指導に生かすようにしています。
- (2) 道徳性の評価は、広い視野に立って、多面的に長い目で多くの人々の協力を得て、いつも、動的、発展的に評価します。また、全体の評価と一人一人の評価に努めています。

特色ある学習方法

- (1) 多様で感動的な読み物、ビデオなどの視聴覚教材などを使い、どの子どもも発言できる話し合いができるよう工夫し、心に響き、心が動く指導法を工夫します。
- (2) 児童一人一人が主体的に道徳的価値の自覚を図り、道徳的実践力を身につける時間です。そのため、教師が児童と一緒にいて、いかに生きるべきかを「共に考え、共に学ぶ」ことができるようにという姿勢を持って臨んでいきます。

使用教材等

多様で感動的な読み物資料：道徳副読本「道徳2 みんなたのしく」を主に使います。どの児童にも親しみやすく、とけ込みやすい資料です。

「心のノート」：子どもたちの心の教育を充実させることを目的に作成されています。読み返したり、記入したり、作業したりすることを通して、子どもたちが自分を見つめ心を豊かに育てていくことを願っています。

留意事項

- (1) 低学年は特に身近な人やものとのかわりを通して、感じたり、考えたりしながら、心を育てていきます。この時期の家族、友達、学校や近所の人々、あるいは身近な自然などとの触れ合いは、その後の心の成長の土台となります。学校と家庭、地域が連携した学習になるよう、ご協力をお願いいたします。
- (2) 「心のノート」は、子どもが授業の中で記入していくだけではありません。ご家庭でもノートを一緒に開いて言葉かけや書き込みをしていただくこともあります。子どもの成長を温かく見守ってあげてください。